# COVID-19 騒動の渦中に想う

内科医　佐藤　南斗
将来について模索中の若手内科医です。

本原稿の執筆時点（2020年２月28日現在）で、日本は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の騒動の渦中にある。今回の騒動の大きな問題点は、重症化の恐れがある新興感染症の脅威に人類が晒されているということももちろんであるが、さまざまな情報が錯綜し行政・医療機関・国民などが混乱をきたしていることも大きいように思う。

まだ未知の部分もあるため、現段階では一概に申し上げることはできないが、感染者の大半が軽症の風邪症状を呈する本感染症の対策で重要なのは、手洗いなどの基本的な感染防御策に加え、風邪症状が出た人は感染を拡大させないために出勤・登校・外出を控えて自宅で療養する、ということに尽きる。軽症者が検査や治療を求めて医療機関を受診すると、そこにいる高齢者や医療関係者に余計な感染のリスクを負わせることになる。またそれだけでなく、医療・検査機関のマンパワーや資源を削ぎ国力を逼迫することにも繋がる。軽症ウイルス感染症に対して日本人がよくとる受療行動は、国家全体で見ると害が大きい。しかし連日報道されているワイドショーなどではいたずらに国民の不安を煽り、早期受診・早期検査・早期治療などの必要性を叫ぶコメンテーターなどもいるからさらにたちが悪い（そもそも本感染症に特異的な治療法もないのに！）。

なぜこのように医療者-患者間で（さらには医療者間でも！）、認識のズレが生じてしまっているのだろうか。それは、これまで医療者が医療情報を独占しすぎて患者に判断能力を与えずにいたことが要因の一つではないかと私は考える。一昔前はお医者様の言うことは絶対で、そこに一般の人の意見の入り込む余地はなかった。健康のことで困ったら病院に行こう。体調が悪くなったら病院に行こう。日本人はこのような意識がとても強く、また昔の医者もこのような患者を相手に安心を売っていた。医学の正しい知識は医療者によって独占され、患者が病院を受診しても、得られるものは正しい行動を取るための知識ではなく大量の薬のみであった。これは世界一医療アクセスの良い国民皆保険制度の功罪でもある。欧米人は風邪程度では医療機関を受診しない。結果的に日本では自らの健康問題をself-managementできずに不要な検査・処方を求める患者が医療機関に押しかけ、現場の疲弊や医療費の増大を招いている。

これは非医療者が悪いのではなく、医療情報を独占しすぎた我々医療者に責任がある。患者自身が自ら考え、適切な行動をとれるようにならなければ、また数年後に同じような感染症が流行した際に、事態は再び混乱するだろう。

では我々医療者にできることは何があるだろう。一部の良識ある医療者たちはTwitterやYouTubeなどのSNSを使って正しい医療情報の発信に努めている。近年では若年層を中心にこれらの情報源を活用して医療リテラシーを高めている層も現れているが、それと同等かそれ以上の影響力を持つ誤った情報も多い。これらの情報の正誤判断や取捨選択能力を高めるにはどうすれば良いか。

ここからは私の妄想だが、大きく２つの方法を私は考える。一つは医学教育を学校教育に取り入れること。これは教える側のマンパワーの問題や、日々アップデートされる医学をどのように教えるのかなど問題は山積みだが、国民全体の意識を変えて医療リテラシーを高めるには必要なことではないかと考える。今回の新型コロナウイルス騒動に関していえば、検査の感度・特異度、感染防御の基本原則などの考え方は、普遍的な一般常識としてもっと世に広まるべきだろう。こうして社会全体に医療リテラシーを持たせることによって、患者の受療行動が変わるだけでなく、風邪を引いたときに仕事を休みやすくなる・健康問題に関しての差別が無くなるなど、優しい社会が形成されれば良いなと思う。

もう一つは実用化がいつになるか不明だが、Aiの力を借りることである。昨今のAi技術の進歩は著しい。日々増え続ける膨大な医療情報をインプットする能力は既にAiは人間の脳よりもはるかに優れている。全ての医学論文の内容を頭に入れることは人類には不可能である。実際、スマートフォンやタブレットでの検索なしにはもはや現場の診療は成り立たない。また、米国の実業家イーロン・マスクの事業“ニューラリンク”（脳埋め込み型インターフェイスの開発事業）の取り組みなどが実用化されれば、脳とAiを融合させ脳機能を拡張し、より高度な記憶や判断ができるようになるだろう。これが一般にも普及すれば、自らの健康状態をAiに問い合わせるとその場で適切な診断や対応を得ることができるようになる未来がやってくるかもしれない。逆にこれらの技術を医療者が診療に取り入れなければ、あっという間にAiと融合した患者に知識や判断能力で抜かされしまうだろうが…。

以上、自由に述べさせていただいたが、今回のCOVID-19騒動がきっかけで社会がまた一つより良い方向へ向かってくれることを願うばかりである。